

### アラビアの話 その３．

アラビア人はアラビア半島を中心に東はイラク、西は北アフリカのモロッコ、南は東アフリカ・コモロ、北はシリア辺りまでの２０数カ国と地域で政権のすべてか一部を支配している民族です。イランやトルコは同じイスラム教国ですが、イランはインドアーリアン系でイスラム教の分派の一つであるシーア派が支配する国で、トルコは中央アジア・モンゴリアン系を祖先とし１００年前までアラビア半島を殖民支配してきた国で、両国ともアラビア民族は内心では信用せず、むしろ何かあると爆発しかねない関係にあります。これらの背景を知った上で新聞・ＴＶを読むと現在の西アジア情勢が良く判ります。日本の外務省やマスコミが「中東」とこの地域を言いますが、元々欧州の英・仏・独等が第一次大戦前後に植民地分割の話し合いをしていた頃に彼らから見て極東の日・中・韓、近東のバルカン半島、南アジアのインドなどと区別する為に便宜上つけた軍政用語なので、アラビア人から見れば一種の差別と取られている為、「西アジア」とあえて言い換えています。

高温・乾燥の地域が大部分で、羊・山羊・ラクダなどの放牧とオアシス近辺の農業と周辺諸国との交易で数千年間細々と生き残ってきた地域です。各地の有力部族毎に略奪し合ったのは、つい数世代前まで日常茶飯事のようなものでした。彼らが普段口にするのは羊・山羊のヨーグルトやチーズ、直径３０ｃｍほどのホブス（インドのナンに似たもの）、トマト・オクラ・モロヘイヤ・ニガウリなど高温に強い野菜が主な食材です。たまに遠来の客や結婚式、子供の誕生などハレの食事は羊を丸ごと焼いて、蒸した長粒米（大部分輸入の貴重品）を引いた大皿の上に乘せ８～９人/皿で、右手だけで食べるカルーフがあります。１０月２６日から１１月２４日までイスラム教徒は日中断食をするラマダーンですが、１１月２５日から５日間は連日親戚や友人・隣人を招いて、このカルーフを食べて断食明けの祝いをするのが慣わしで、当方も回数だけで言えば延べ１５０頭以上の羊を食べました。イスラムの暦は太陽暦に比べ１０～１１日短いので、ラマダーンも毎年その分ずれていき、定年の６０歳も太陽暦では５８歳２ヶ月となり、当方は２年前に帰国した次第です。

５００年以上も植民地となっていた為、アラブの女性は初潮があると顔手足をアバヤと言う黒衣で隠し他人の前に出るので、残念ながら１０歳以上の女性の素顔を見た事はなかったのですが、結婚式（当然男女別々）に出たかみさんの話では流行のシャネルを着たり、グッチのバッグを持ったりと結構最新ファッションに身を包み歌舞に興じていたそうです。女性は１８歳前後で親の決めた相手と結婚するのに対し、男性は結納金が高額なので親が金持ちでない時はどうしても３０歳過ぎになるようです。同じ部族同士だと話し合いで金額が安く決められるので結婚も比較的容易なようですが、血の濃さから来る弊害も彼等は知っているので、中々難しいようです。昔は日本にも男女７歳にして席を同じうせずがあったようですが、サウディアラビアは今でも厳格に守り、教育は勿論町の食堂も男女別々、車の運転は男だけ（従い特殊な例外を除き買い物は大抵男がする）の国です。では又、